

平成31年度 行政評価事業別シート

実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input checked="" type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	青山昌彦
全体計画						経費区分		実施計画事業費		内線	3732
事務事業名	14322 総合公金収納システム構築事業										
所 属	250100 会計課・会計課										
施 策	07024400 市民と共に歩む、信頼され活気ある組織・体制づくり										
予算科目	会計	01 一般会計									
	科目	020103 総務費・総務管理費・会計管理費									
	事業	020000 総合公金収納システム構築事業									
事業目的						事業概要・効果					
公金収納事務を指定金融機関(八十二銀行)に委託し、紙ベースからデータによる収納業務に移行することにより事務の効率化を図る。						<ul style="list-style-type: none"> ・ 済通を紙ベースからデータ化し、データとして納品させることにより、OCRIによる消込がなくなる。 ・ 済通原本をデータ化することにより、領収日等をシステム画面にて検索確認が可能となる。済通原本及びデータは庁外(隔地)に保管することとなり、庁内の省スペース化、災害時の情報喪失回避につながる ・ 口座振替データを各課で作成し、媒体(FD)を金融機関へ持込みしていたものを、会計課でデータ集約しLGWAN回線を通じ伝送することにより、個人情報漏えい等リスクを回避することが可能。 					

PLAN-DO
年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
平成29年度 実績	平成30年度 実績
平成31年度 予定	令和 2年度 予定
公金収納システムを令和2年度から稼働できるように導入準備を行う。	公金収納システムを導入・稼働させる。

指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		0	30,291
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	6,728
一般財源		0	23,563
人員数(人)	正規職員	0.0	0.4
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	0.0	2,860.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	0.0	2,860.0
市民一人当たりの経費		0.0	0.6
総額		0.0	33,151.0

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	30,291	公金収納システム構築業務委託料 17,162、公金収納システム連携作業委託料 2,244、公金収納システム基幹系システム連携作業委託料 10,885
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> この業務は、定型型業務で、かつ大量に発生する業務である。 公金収納業務を外部委託し、紙ベースからデータによる収納業務に移行することで、市全体の収納業務の事務の効率化につなげる。 	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> 現在、収納金融機関とのFD等のデータのやり取りを、LGWAN回線を使いデータのやり取りを行うことで、個人情報漏えいリスクの軽減が図られる。 多様化する収納方法に対応したシステム構築を図る。（「スマホ決裁」「キャッシュレス決裁」など） 	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	向上
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> 定型型業務のアウトソーシングは、今後、職員の増加が見込めない中で、事務の効率化が見込める業務である。 	

振り返り（決算年度の取組み課題）

平成31年度当初からの事業のため未実施である。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>会計課だけではなく、全庁的に収納業務を行っている課等の事務軽減が図れ、空いた時間を他の業務に振り向けたり、時間外に及んでいる業務の軽減が図れる予定である。</p>		<p>会計課だけではなく、全庁的に収納業務を行っている課等の事務軽減が図れ、空いた時間を他の業務に振り向けたり、時間外に及んでいる業務の軽減が図れる予定である。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	